

山形市野草園からのお知らせ



ザゼンソウとミズバショウの群生（30年4月中旬に撮影）

ミズバショウ(サトイモ科)

ミズバショウの白い花弁のようなものは、葉の変形したもので仏炎苞（ぶつえんほう）と呼ばれています。その中のトウモロコシのような形をした黄色いものが花序（小花の集まり）です。ミズバショウは、水辺に咲く早春の花としてとても人気があります。驚くことに、葉は花の後に80cm位の大きさになります。

ザゼンソウ(サトイモ科)

ミズバショウよりも一足早く、3月下旬には花を咲かせました。紫褐色の花弁のように見えるものは、ミズバショウと同様に仏炎苞と言われる葉が変形したものです。中に見える黄色い球形のものが花序です。花の感じが、座禅をしている僧侶のように見えるためこの名があります。

3月末からの雪と低温のために、早春の草花の開花が遅れ気味でした。4月中旬になり、野草園のシンボルであるミズバショウがたくさん咲き始めました。敷地中央にある広い湿地「ミズバショウの谷」には、ミズバショウとザゼンソウが一面に咲いています。その中の木道を歩くと、合わせて約2万株のミズバショウとザゼンソウを見ることができます。また、湿地の林の下には、ショウジョウバカマやイワウチワなどが可憐な花を咲かせています。

カタクリ、オオヤマザクラ、ユキツバキ、ヒトリシズカなども、もうすぐ咲き始めます。春の野草園はたくさんの花が咲き乱れ、自然散策が楽しい季節になります。

4月後半から5月上旬の予定

最大のイベント「春の野草園祭り」が、4月27日（土）～5月6日（月）の10日間開催されます。子どもも大人も楽しめる催し物を企画しています。ご家族、友達、親しい仲間で、ぜひご来園下さい。

《4月第3月曜から6月第2月曜まで無休で開園します》

※入園料は300円 高校生以下は無料です。

5/4（みどりの日）は無料開放日で、大人の入園料も無料です。

※都合により内容の一部が変更になる場合があります。

◆キッチンカー等の出店

○日 時 期間中毎日 10:00～15:00
○内 容 ネパールカレー、ドーナツ等の販売

◆バルーンアートプレゼント

○日 時 4/27（土）・29（月）10:00～12:00 13:00～15:00

◆クリンソウ植栽体験

○日 時 4/27（土） 10:00～11:00
○内 容 園内にクリンソウを植栽
○対 象 事前申込み 先着30人
○持ち物等 汚れても良い服装、長靴、ゴム手袋
○申込み 電話で野草園まで TEL023-634-4120

◆親子で楽しむミニ盆栽教室

○日 時 4/28（日） 10:00～11:30
○内 容 ミニ盆栽の植替え・剪定・鉢植え（完成品は持ち帰り）
○講 師 山形小品盆栽会
○対 象 事前申込み親子先着10組
○参加費 教材・鉢代として1組1,500円
○持ち物等 汚れても良い服装
○申込み 電話で盆栽会工藤氏へ TEL023-688-4977

◆大自然お山ヨガ

○日 時 4/28（日） 10:00～10:50
○講 師 ヨガインストラクター 佐藤 藍 氏 ○持ち物等 動きやすい服装
○申込み 不要

◆健康ウォーキング講座

○日 時 4/28（日） 10:30～12:00
○内 容 ウォーキングやストレッチの方法を学びながら園内を散策
○講 師 山形市健康づくり運動普及推進協議会
○対 象 先着20人
○持ち物等 歩きやすい服装、飲み物
○申込み 電話で野草園まで TEL023-634-4120

◆ラベンダー植栽体験

○日 時 4/28（日） 10:00～11:00
○内 容 園内にラベンダーを植栽

○対 象 事前申込み 先着30人
○持ち物等 汚れても良い服装、長靴、ゴム手袋
○申込み 電話で野草園まで TEL023-634-4120

◆西蔵王妖刀伝2(ようとうでん) ～秘剣風牙 VS 妖刀雷牙～
○日 時 4/29(月) 11:00～ 13:00～
○内 容 紅蓮羽(くれは)殺陣舞台、忍者体験教室

◆四季観察会(西蔵王の桜)
○日 時 5/1(水) 9:30～12:00
○場 所 野草園内
○内 容 園内に咲く桜を中心に観察
○講 師 植物案内ボランティア 志鎌節郎 氏
○対 象 先着20人
○費 用 資料代100円
○申込み 電話で野草園まで TEL023-634-4120

◆瀧山太鼓演奏
○日 時 5/1(水) 11:00～11:30
○出 演 瀧山太鼓保存会

◆餅振舞い
○日 時 5/1(水) 11:30～なくなり次第終了(9:00～整理券配布)
○内 容 大曽根餅つき保存会による餅つきの実演と体験、紅白餅の振舞い

◆コンサート「丹波恵子」
○日 時 5/1(水) 12:30～13:00 14:30～15:00
○内 容 ミヤマカスミザクラをテーマにした楽曲等の演奏

◆乗馬体験
○日 時 5/2(木)・5日(日)
10:00～12:00 13:00～15:00
○内 容 ポニーやサラブレッドへの乗馬
○対 象 各馬 先着100人(午前9時～整理券配布)

◆ミニ新幹線運行
○日 時 5/2(木)・3(金)
11:00～12:00 13:00～15:00

◆フィールドビンゴ(当日申込み 人数制限有)
○日 時 5/3(金)・5(日) 10:00～12:00
○内 容 職員と花等を探しながらのビンゴゲーム

◆コンサート「山形市役所ウインドアンサンブル」
○日 時 5/4(土) 13:00～13:30
○内 容 吹奏楽の演奏

◆虫博士と遊ぼう（当日申込み 人数制限有）

○日 時 5/5（日） 10:00～12:00

○内 容 虫博士と昆虫等を探しながら散策 ○講 師 山形市職員

◆カブトムシの育て方教室

○日 時 5/6（月） 10:00～11:00

○内 容 幼虫2匹・朽木マット・ケースを配布、育て方の指導 ○費 用 500円

○講 師 カブトムシ生産者 千葉和人 氏 ○対 象 小学生親子 先着20組

○申込み 電話で野草園まで TEL023-634-4120

◆秘密基地を作ろう（当日申込み 人数制限有）

○日 時 5/6（月） 10:00～12:00

○内 容 園内に枝等を使って秘密基地を作る ○講 師 山形市職員

◆ガイドウォーキング

○日 時 4/20（土）・21（日）

4/27（土）～5/6（月）野草園祭り期間中全日

10:00～ 11:00～ 13:00～ 14:00～（1日4回）

○内 容 ミズバショウなど見頃の花を案内 ○申込み不要（自然学習センター前集合）

◆山野草販売 4/27（土）～5/6（月）

◆山形まるごと市 5/3（金）～5/5（日）

●●●4月後半に見られる主な花たち●●●



アズマイチゲ（キンポウゲ科）

イチリンソウのなかまで、春の短い期間だけ咲き、初夏には枯れてしまいます。キクザキイチゲと似ていますが、葉に切れ込みが少なく、肩を落としているように垂れ下がっていることで、見分けることができます。花弁状の萼片は白色で基部と裏側は少し紫色を帯びています。主に東日本に多く分布しイチリンソウ（イチゲ）の仲間なので名がついています。



キクザキイチゲ（キンポウゲ科）

まわりの木々が葉を茂らせる前にいち早く咲き出します。名前からもわかりますが、花弁状の萼片が多く、また、葉も切れ込みが多くキクの花に似ています。花色は多彩で淡紫青色から白色までいろいろあります。日が当たると花を開き、曇ると花を閉じてしまいます。



リュウキンカ(キンポウゲ科)

黄色（金色）の花が、立った茎に咲くので「立金花」と言われています。湿地や沼地に生える多年草で、葉はフキのようなまるい形をしています。黄色の花のように見えるのは、花弁状の萼片で、花弁はありません。「クリンソウの谷」の小川に咲き始めました。



ショウジョウバカマ（シュロソウ科）

春いち早く咲く常緑多年生の草本です。葉は地表に広がってロゼット状になり、花茎の先に数個の花を横向きにつけます。花は淡紅色から濃紅紫色まであります。名前の由来は、花を能楽の「猩々」の赤頭の毛に例え、葉を袴に見立てたものと言われています。園内では、シロバナショウジョウバカマも見ることが出来ます。



サンシュユ(ミズキ科)

中国原産の落葉高木で、江戸時代に薬用植物として渡来したと言われています。秋に赤く熟す果実の果肉を乾燥したものを強壮、強精などの薬用にしたり、果実を果実酒にします。葉が開く前に淡黄色の小さな花を沢山つけます。花弁は4個で長さ約3ミリで、先はとがりそり返ります。春黄金花、秋珊瑚ともいわれます。「吉林の庭」で見ることが出来ます。



キタコブシ（モクレン科）

冬には長い軟毛におおわれた花芽がたくさんついていました。春になると白い花を枝いっぱい咲きます。花弁は6枚あり、花の下に小形の葉が1枚つきます。これが他のモクレン科の花との違いです。花芽や花を見ても名前の由来は分かりませんが、秋に実る果実を見るとよく分かります。果実が「握りこぶし」に似ているのです。



イワウチワ（イワウメ科）

常緑の多年草で、岩地に生え、葉がうちわに似るのでこの名がついています。イワウチワの葉は、質が厚く光沢があり、長さより幅が広いのが特徴です。葉の間から花茎を立てて、1茎に1花をつけます。花は横向きに開き、淡紅色で先が細かく切れ込んでいます。



アカヤシオ（ツツジ科）

まわりの木々が芽吹く前、ピンク色の花がひととき目立ちます。枝分かれが多く、葉が開く前に、枝先に淡紅紫色の広い漏斗状で5裂した花弁と、雄しべ10個の花をつけます。葉は広楕円形で先がとがり、枝先に5枚輪になってつきます。葉柄や葉縁には2mmをこえる毛が生えています。



エゾムラサキツツジ（ツツジ科）

自生地の北海道では、5月に開花しますが、本園では、4月に咲くツツジの1つです。ツツジの仲間は花の美しいものが多く、庭木、生け垣、盆栽、公園樹などに利用されています。枝先の花芽から紫紅色の花を開き、葉は枝先に集まってつきます。半常緑樹でやや革質、葉先はくぼんでいます。ロックガーデンを少し登った所で見ることが出来ます。



カタクリ（ユリ科）

1枚の細長い葉から平たい葉になって、2枚の葉を出すようになると花を開きます。種子から開花まで7年～8年かかると言われています。カタクリの花は淡紅紫色で、花びらのつけ根に濃紫色のW字形の模様があり、上の方へ大きくそり返ります。カタクリのでんぷんから採ったものが本物の片栗粉です。



オクチョウジザクラ（バラ科）

太平洋側のチョウジザクラに対して、日本海側に分布するサクラです。花の萼筒が長く、少しふくらみます。横から見ると花弁と萼筒が丁字形をしているのが名前の由来です。花は最初は白っぽく、花の終わりには赤っぽくなります。園内ではジュウガツザクラに次いで早く咲きます。



オオヤマザクラ（バラ科）

東北地方や北海道に多く、それ以外の地域ではやや標高の高い山地に生えています。ヤマザクラよりも葉や花が大きいことが名前の由来です。赤っぽい色をした若葉が開くと同時に淡紅色の花を咲かせます。花色はヤマザクラより濃く、小花柄は無毛です。6～7月に果実をつけ、葉は夏には暗い緑色に変化します。



ヤマウグイスカグラ（スイカズラ科）

山野に普通に生え、よく分枝して高さ約2mになります。花はやや曲がった漏斗状で先端は5つに裂けます。葉はこの後開き、長さ約5cmの楕円形です。初夏にグミに似た実が赤く熟し、とても甘いです。名は、古名ウグイスガクレの転訛とされています。



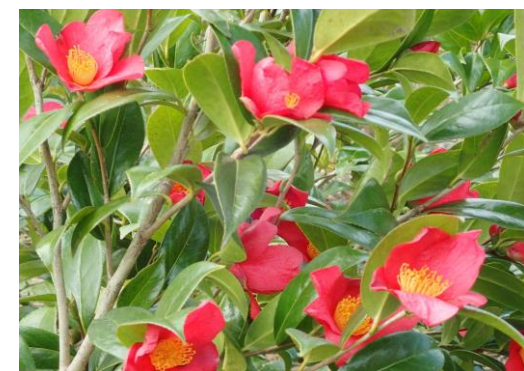
オオバクロモジ（クスノキ科）

若枝は緑色のすべすべした肌で、黒い斑点が多く、それが文字のように見えるのが、名前の由来とされています。雌雄異株で、花は黄緑色で、春に葉が出るのと同じ頃に葉の脇から10数個集まって咲きます。葉や枝は噛むと芳香があり、高級なつま楊子に使われたり、薬用にも使われます。



オキナグサ（キンポウゲ科）

花は花茎の先に1個つき、つり鐘形です。葉は白い毛でおおわれ、また、花弁状の萼片の外側にも白い毛が密生しているので白っぽくみえます。萼片は6個あり、内側は暗紫赤色です。花が終わった後、雌しべは長い羽毛状の果実の集まりになります。それを老人の白髪にたとえて、オキナグサ（翁草）と名付けられたとされています。



ユキツバキ(ツバキ科)

東北地方から北陸地方の日本海側の多雪地に咲く常緑低木です。高さは2mほどになりますが、多雪地帯に適応したタイプで、幹は地をはい、平たい半球形の樹形を作ります。ヤブツバキと比べると、葉と花弁は質が薄く、花糸は黄色です。ツバキは咲き終わると、花全体が落ちてしまいます。



ミヤマカスミザクラ(バラ科)

以前からこの場所に自生していたサクラですが、本園職員が他のサクラとは違っていることを発見し、「ミヤマカスミザクラ」と命名されました。本種には次のような特徴があります。ミヤマザクラは葉が開いてから花を開きますが、本種は開葉と開花が同時です。花序はミヤマザクラのように総状で、目立つ苞葉があり、その苞葉の縁はだいたい全縁で、ミヤマザクラのような重鋸歯はまれです。花弁は、ミヤマザクラのように先が円形ではなく、2つに裂けています。これらは、もう片方の親であるカスミザクラの特徴を受け継いでいるためと考えられています。